

# 安全データシート

## 1. 製品及び会社情報

製品の名称	:	サスがレボア (エアゾール製品) (不溶液性切削油)
会社名	:	大陽日酸ガス&ウェルディング株式会社
住所	:	埼玉県草加市松江6-7-5
担当部門	:	レプコ事業部
電話番号	:	048-936-0401
FAX番号	:	048-931-0143
整理番号	:	200
緊急連絡先	:	
電話番号	:	
FAX番号	:	

## 2. 危険有害性の要約

〈GHS分類〉	
物理化学的危険性	
可燃性・引火性エアゾール	: 区分1
健康に対する有害性	
急性毒性 (経口)	: 分類できない
急性毒性 (経皮)	: 分類できない
急性毒性 (吸入: ガス)	: 分類対象外
急性毒性 (吸入: 蒸気)	: 分類できない
急性毒性 (吸入: 粉塵、ミスト)	: 分類できない
皮膚腐食性/刺激性	: 分類できない
眼に対する重篤な損傷/眼刺激性	: 分類できない
呼吸器感作性	: 分類できない
皮膚感作性	: 分類できない
生殖細胞変異原性	: 分類できない
発がん性	: 分類できない
生殖毒性	: 分類できない
特定標的臓器毒性 (単回暴露)	: 区分3 (麻酔作用)
特定標的臓器毒性 (反復暴露)	: 分類できない
吸引性呼吸器有害性	: 分類できない
環境に対する有害性	
水生環境有害性 (急性)	: 分類できない
水生環境有害性 (慢性)	: 分類できない
オゾン層への有害性	: 分類できない
※ 記載がないものは分類対象外または分類できない。	

### 〈ラベル要素〉

絵表示又はシンボル



注意喚起語	:	危険
危険有害性情報	:	極めて可燃性又は引火性の高いエアゾール 高压容器; 熱すると破裂のおそれ 眠気又はめまいのおそれ

注意書き

[安全対策]

:	ご使用の前に安全データシートをお読み下さい。 容器は熱源/火花/裸火/高温から離して置いて下さい。-禁煙。
---	--

裸火又は他の着火源に噴霧しないで下さい。  
 使用後を含め、穴を開けたり燃やしたりしないで下さい。  
 粉塵/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けて下さい。  
 屋外又は換気の良い場所でのみ使用して下さい。

- [応急処置] :
- 火災の場合には、消火に泡消火剤、噴霧水、炭酸ガス消火剤を使用して下さい。
  - 吸入した場合には、空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させて下さい。
  - 気分が悪いときは、医師に連絡して下さい。
  - 飲み込んだ場合には、無理に吐かせずに直ちに医師に相談して下さい。
  - 眼に入った場合には、十分に水で洗い流してから医師に相談して下さい。
- [保管] :
- 換気の良い場所で保管して下さい。
  - 容器は密閉して、施錠して保管して下さい。
  - 日光から遮断し、40℃以上の温度にばく露しないで下さい。
- [廃棄] :
- 内容物/容器を各都道府県の規則に従って、専門の廃棄物処理業者に廃棄を委託して下さい。

### 3. 組成及び成分情報

成分名 (別名)	CAS No.	含有濃度 (質量%)	化学式	官報告示政 令番号 (化審法)	官報告示政 令番号 (安衛法)	PRTR法
脂肪酸エステル (混合)	企業秘	60~70	明記できない	企業秘	企業秘	対象外
プロパン	74-98-6	10~20	C <sub>3</sub> H <sub>8</sub>	2-3	-	対象外
ノルマルブタン	106-97-8	10~20	C <sub>4</sub> H <sub>10</sub>	2-4	-	対象外
イソブタン	75-28-5	1~10	C <sub>4</sub> H <sub>10</sub>	2-4	-	対象外

### 4. 応急措置

- 吸入した場合 :
- 蒸気、ガス等を大量に吸い込んだ場合には、被災者を直ちに空気の新鮮な場所に移し、暖かく安静にする。呼吸が不規則か止まっている場合には人工呼吸を行う。うがい等で鼻孔、口腔を清浄にする。嘔吐物は飲み込ませないようにする。意識のない場合は何も与えては成らない。いずれの場合も速やかに医師の手当てを受ける。
- 皮膚に付着した場合 :
- 付着物を布にて素早く拭き取る。
  - 多量の水と石鹼 (又は皮膚用の洗剤) を使用して十分に洗い落とす。溶剤、シンナーは使用しない。直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。また溶剤が全身にかかった場合は、流水またはシャワー等で十分に洗い流す。
  - ガスの付着を受け、凍傷となった場合には衣服は脱がせず、そのまま多量の水または温水で洗い流す。外観に変化が見られたり、痛みがある場合には医師の手当てを受けること。
- 眼に入った場合 :
- 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。瞼及び眼球の隅々まで洗眼する。眼が開けられない場合、無理にあけさせない。できるだけ速やかに医師の手当てを受ける。
- 飲み込んだ場合 :
- 無理に吐かせないで、直ちに医師の手当てを受けること。
  - 口の中が汚染されている場合は水で十分洗う。
  - 嘔吐物は飲み込ませないこと。意識のない場合は何も与えては成らない。いずれの場合も速やかに医師の手当てを受ける。
- 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状 :
- (麻酔作用) 眠気やめまいのおそれ
- 応急措置をする者の保護 :
- 換気を行う。火気に注意する。
  - 必要な保護具を着用する。(保護手袋、有機溶剤用防毒マスク)
- 医師に対する特別な注意事項 :
- 特に情報はない

## 5. 火災時の措置

- 消火剤  
使ってはならない消火剤  
特有の危険有害性
- ： 泡、散水又は噴霧水、炭酸ガス  
： 棒状注水  
： 火災の現場にエアゾール容器があると破裂する恐れがある。極めて燃えやすい。熱、火花、火炎で容易に発火する。火災によって刺激性、毒性又は腐食性のガスを発生するおそれがある。引火性の高いガス、液体及び蒸気。
- 特有の消火方法
- ： 極めて燃えやすい。熱、火花、火炎で容易に発火する。直ちに消火器等で消火する。指定の消火器を使用すること。可燃性の物を周囲から素早く取り除くこと。可能であれば、エアゾール容器を火元から遠ざける。移動不可能な場合は容器及び周囲に散水して冷却する。速やかに避難し、関係者以外は立ち入り禁止とする。火災の現場にエアゾール容器があると破裂するおそれがあるので、消火活動には距離を十分に取り、高温にさらされる製品容器には水等をかけて冷却する。消火活動は十分距離をとって、風上から行う。有毒なガス（CO、NO<sub>x</sub>等）の吸入を避ける。消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
- 消火を行う者の保護
- ： 消火者は必ず適切な保護具（耐熱着衣、保護眼鏡等）を着用し、空気呼吸器等を装備する。吸入及び直接の接触を避ける。風上から作業する。

## 6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、  
保護具及び緊急時措置
- ： ばく露防止の為、作業の際には適切な保護具を着用すること。眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。密閉された場所に入るときは換気する。漏れ発生時（噴出時）には風上より処置を行うようにし、容器の漏出部は上向きにし、完全にガスを噴出させてから処置をする。付近の着火源、高温体及び付近の可燃物を素早く取り除き、風下の人を避難させ、漏出した場所の周囲に、ロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。着火した場合に備えて適切な消火器を準備する。漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしないこと。適切な保護具（手袋、保護マスク、エプロン、ゴーグル等）着用し、皮膚への付着や蒸気の吸入に注意する。
- 環境に対する注意事項
- ： 河川などへ排出され、環境への影響を起こさないように注意する。排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流出を防ぐ。必要であれば関係省官庁等へ速やかに連絡する。
- 除去方法
- ： 乾燥砂等の不燃性のものに吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収し、後で処理する。（吸収した物を集める際には清潔な帯電防止工具を用いる）衝撃、静電気にて、火花が発生しないような材質の用具を用いて回収する。蒸気発生が多い場合は噴霧注水で蒸気発生を抑制する。付着物、廃棄物などは、関係法規に基づいて処置をする。付近の着火源となるものを速やかに取り除くとともに消火剤を準備する。漏出物を取り扱うとき用いる全ての設備は接地する。火花が発生しない工具を使用する。排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流出を防ぐ。
- 二次災害の防止策

## 7. 取扱い及び保管上の注意

## 取扱い

- 技術的対策(局所排気・全体排気) : 静電気対策のため、装置等は接地し、電気機器類は防爆型(安全増型)を使用する。  
静電気対策を行い、作業衣、作業靴等は通電性のものを使用する。工具は火花防止型のものを使用する。  
換気の良い場所で取り扱う。通風をよくし、蒸気が滞留しないようにする。  
取り扱う場合には、局所排気内、又は全体換気の設備のある場所で取り扱うこと。  
密閉された場所における作業には、十分な局所排気装置を付け、適切な保護具をつけて作業すること。
- 安全取扱注意事項 : 全ての安全注意をよく読み理解するまで取り扱わないこと。  
使用時には、使用者にかからないように風の流れを背後から受けるようにすること。  
周辺で火気、スパーク、高温物の使用を禁止する。  
火炎に向かって噴射してはならない。  
温度が高くなる場所に置くと、容器が破裂する恐れがある。  
ミストを吸入しない。  
接触、吸収又は飲み込まないこと。  
ばく露防止の為、保護具を着用して作業を行う。  
休憩所等に手袋等の汚染保護具を持ち込まない。  
取り扱い後は手洗い等を十分に行い、衣服に付着した場合は着替える。  
容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずる等の扱いをしてはならない。  
この製品を取り扱う際に、飲食又は喫煙をしないこと。  
混触禁止物質と接触しないように注意する。  
環境へ放出を避けること。
- 接触回避 : 「10. 安全性及び反応性」を参照。  
衛生対策 : 取り扱い後はよく手を洗うこと。  
この製品を取り扱う際に、飲食又は喫煙をしないこと。

## 保管

- 技術的対策 : 静電気放電に対する予防措置を講ずること。  
接触禁止物質 : 「10. 安全性及び反応性」を参照。  
安全な保管条件 : 高温にすると破裂の危険があるため、直射日光のあたる所や、火気等の近くなど温度が40℃以上となる場所に置かないこと。  
子供の手の届かないところに保管すること。  
容器は熱源/火花/裸火/高温から離して保管すること。-禁煙。  
缶が錆びて内容物が漏出、又は噴出する恐れがある為、水回り等の湿気の高い所での保管は避けること。  
混触禁止物質と接触並びに同一場所での保管を避ける。  
保管場所で使用する電気器具は防爆構造とし、器具類は接地する。その他、消防法、労働安全衛生法等の法令に定めることに従う。
- 安全な容器梱包材料 : 高圧ガス保安法等の法令で規定されている容器を使用する。  
容器は、溶接、加熱、穴あけ又は切断しない。爆発を伴って残留物が発火することがある。

## 8. 暴露防止及び保護措置

### 設備対策

- : 取扱い設備は防爆型を使用する。  
静電気放電に対する予防措置を講ずること。  
排気装置を付けて、蒸気が滞留しないようにする。  
取扱い場所の近くには、洗眼及び身体洗浄の為の設備、機器又は局所排気装置を使用し、高温、発火源となるものが置かれないような設備とする。  
屋内作業の場合は、作業者が直接ばく露されない設備とするか局所排気装置等により作業者がばく露から避けられるような設備とする。

タンク内部等の密閉場所で作業する場合には、密閉場所の底部まで十分に換気できる装置を取り付ける。

成分		プロパン	ブタン
管理濃度		設定されていない	設定されていない
許容濃度	日本産業衛生学会	設定されていない	500ppm
	ACGIH(TLV-TWA)	設定されていない	設定されていない
	ACGIH(TLV-STEL)	設定されていない	1,000ppm

※ 表記していない成分はばく露限界値が設定されていない。

保護具

- 呼吸用保護具 : 通常必要ではないが、必要に応じて有機ガス用防毒マスク
- 手の保護具 : 保護手袋（不浸透性、耐薬品性）
- 眼の保護具 : 保護眼鏡（ゴーグル型）、保護面
- 皮膚及び身体の保護具 : 保護衣（長袖、不浸透性）、安全靴、前掛け等（耐溶剤性）  
半袖の作業着は避ける。

適切な衛生対策

- : 保護具は清潔で有効なものを使用する。  
取扱い後はよく手を洗うこと。  
作業中は飲食、喫煙をしない。

9. 物理的及び化学的性質

物理化学的状態	内溶液	噴射剤
		液化石油ガス
	液体	大気圧下、ガス状、圧力容器内、液状
外 観	淡黄色透明性液体	無臭
臭 い	おだやか	データなし
臭いのしきい（閾）値	データなし	データなし
p H	データなし	該当しない
融 点	データなし	プロパン -189.7℃ n-ブタン -138℃ イソブタン -160℃
沸 点	データなし	プロパン -42℃ n-ブタン -0.5℃ イソブタン -12℃
引 火 点	> 285℃（密閉式）	プロパン -104℃ n-ブタン -60℃ イソブタン 引火性ガス
流 動 点	-35℃	データなし
蒸発速度	データなし	データなし
燃 焼 性	データなし	データなし
爆発範囲	データなし	プロパン 2.1~9.5vol% n-ブタン 1.8~8.4vol% イソブタン 1.8~8.4vol%
蒸 気 圧	データなし	0.40MPa（20℃）
ガス密度	データなし	プロパン 1.6（空気=1） n-ブタン 2.1（空気=1） イソブタン 2.0（空気=1）
比 重	0.91（25℃）	0.545（20℃）
溶 解 度	鉱物油に可溶	プロパン 0.07g/100mL n-ブタン 0.006g/100mL イソブタン 不溶
n-オクタノール/水分配係数	データなし	プロパン 2.36 n-ブタン 2.89 イソブタン 2.80
自然発火温度	データなし	プロパン 450℃ n-ブタン 287℃ イソブタン 460℃
分解温度	データなし	データなし
粘 度	40CST（40℃）	データなし

## 1 0. 安定性及び反応性

- 反応性/化学的安定性 : 40℃以上になると破裂の恐れがある。  
常用温度で缶内圧は約0.46MPa。  
静電気が発生すると引火爆発の危険性がある。  
高温の表面、火花または裸火により発火する。
- 危険有害反応可能性 : 高压ガスが入っているため加熱、衝撃等により破裂する危険がある。  
可燃性の液化ガスであり、空気と爆発性混合ガスを形成し易い。  
換気の際は、周囲に着火源のないことを確認すること。  
酸化性物質と激しく反応する  
プロパンは二酸化塩素と激しく爆発。  
ブタンはニッケルカルボニル+酸素との混合ガスは爆発を起こす。
- 避けるべき条件 : 高温多湿な場所での保管及び火気（火炎、スパーク等着火源）の近くでの使用。  
衝突を避ける。  
直射日光を避ける。  
混触危険物質との接触を避ける。  
静電気との接触を避ける。
- 避けるべき材料 : ガスはアルコール及びエーテルに溶解し、石油類や動植物油、天然ゴムをよく溶解する。
- 混触危険物質 : ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、強酸化物、過酸化物、酸化剤
- 危険有害な分解生成物 : 燃焼等により有害なガス（一酸化炭素、二酸化炭素、二酸化ケイ素、ホルムアルデヒド等）を発生する。
- その他の有害性情報 : 蒸気及びガスは引火して爆発する恐れがある。

## 1 1. 有害性情報

### 内溶液

- 急性毒性（経口） : データ不足のため分類できない  
脂肪酸エステル（混合）LD<sub>50</sub> >> 2,000mg/m<sup>3</sup>（推定値）
- 急性毒性（経皮） : データ不足のため分類できない
- 急性毒性（吸入：ガス） : GHS定義による気体ではない。
- 急性毒性（吸入：蒸気） : データ不足のため分類できない
- 急性毒性（吸入：粉塵、ミスト） : データ不足のため分類できない
- 皮膚腐食性及び皮膚刺激性 : データ不足のため分類できない
- 眼に対する重篤な損傷性  
又は眼刺激性 : 加成分が適用できる成分からの判定では危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分外に該当。  
毒性未知成分が90%以上なので区分外から分類できないに変更。
- 呼吸器感作性又は皮膚感作性 : データ不足のため分類できない
- 生殖細胞変異原性 : データ不足のため分類できない
- 発がん性 : データ不足のため分類できない
- 生殖毒性 : データ不足のため分類できない
- 特定標的臓器毒性、単回暴露 : 区分3に該当する成分の合計が≥20%のため、区分3（麻酔作用）に該当。
- 特定標的臓器毒性、反復暴露 : データ不足のため分類できない
- 吸引性呼吸器有害性 : GHS定義による固体、液体ではない。
- その他の有害性情報 : 脂肪酸エステル（混合）は人体への病的な影響なしと報告されている。（同類の成分での数値）  
飲むと下痢、嘔吐する可能性がある。ミストを吸引すると気分が悪くなることもある。

## 1 2. 環境影響情報

### 内溶液

- 生態毒性 : 生分解性を持っている。  
（同類の成分により、CEC-L-33-T-82にて）
- 残留性・分解性 : データなし

生体蓄積性	:	データなし
土壤中の移動性	:	データなし
水生環境有害性（急性）	:	方式3 加算法（毒性乗率×100×区分1）+（10×区分2）+区分3 が濃度限界（25%）未満のため、区分外に該当。毒性未知成分を含有しているため、区分外から分類できないに変更。方式1=データなし、方式2=データなし、方式3=分類できないより分類できないに該当。
水生環境有害性（長期間）	:	方式3 加算法（毒性乗率×100×区分1）+（10×区分2）+区分3 が濃度限界（25%）未満のため、区分外に該当。毒性未知成分を含有しているため、区分外から分類できないに変更。方式1=データなし、方式2=データなし、方式3=分類できないより分類できないに該当。
オゾン層への有害性	:	モントリオール議定書に規制されている物質を含まない。

### 1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物/汚染容器及び包装	:	廃棄をする場合には、ガスを完全に抜いた後に行う。許可を受けた産業廃棄物処理業者と受託契約をして処理すること。中身が出なくなるまで使い切った後でも破製する恐れがあるのでそのまま火中に投じないこと。
----------------	---	---

### 1 4. 輸送上の注意

輸送の特定の安全対策及び条件	:	運搬に際しては容器を40℃以下に保ち、転倒、落下並びに損傷がないように積込み、荷崩れの防止を確実にを行う。
----------------	---	---

#### 国内規制

陸上輸送	:	消防法ほか法令の輸送について定めるところに従う。
海上輸送	:	船舶安全法に定めるところに従う。
海洋汚染物質	:	該当しない
航空輸送	:	航空法に定めるところに従う。
緊急時応急措置指針 （容器イエローカード）番号	:	126

#### 国際規制

陸上輸送	:	ADR/RIDの規定に従う。
国連番号	:	1950
品名	:	エアゾール
国連分類	:	2
容器等級	:	—
海上輸送	:	IMOの規定に従う。
国連番号	:	1950
品名	:	エアゾール
国連分類	:	2
容器等級	:	—
海洋汚染物質	:	該当しない
IBCコード	:	該当しない
航空輸送	:	ICAO/IATAの規定に従う。
国連番号	:	1950
品名	:	エアゾール
国連分類	:	2
容器等級	:	—

### 1 5. 適用法令

化学物質審査規制法	:	該当しない
労働安全衛生法	:	危険物・可燃性のガス（プロパン、ブタン） 名称を表示すべき危険物及び有害物（該当しない） 名称を通知すべき危険物及び有害物（ブタン） 有機溶剤中毒予防規則（該当しない）
船舶安全法	:	高圧ガス

航空法	:	高圧ガス
高圧ガス保安法	:	適用除外（液化ガス・可燃性ガス・圧縮ガス） 但し、政令告示並びに高圧ガス保安一般規則規定に従う。
消防法	:	第四類 動植物油類
海洋汚染防止法	:	油分排出規制（原則禁止）
水質汚濁防止法	:	油分排出規制（5 mg/L 許容濃度）
下水道法	:	鉱油類排出規制（5 mg/L）
毒劇物取締法	:	該当しない
化学物質管理促進法（P R T R法）	:	該当しない

## 16. その他の情報

引用文献等	:	ジメチルエーテル／液化石油ガス SDS 化学物質管理促進法対象物質全データ 労働安全衛生法対象物質全データ 毒劇物取締法対象物質全データ（化学工業日報社）
-------	---	--

\*この情報は、新しい知見に基づき改定されることがあります。

\*ここに記載された情報は、当社の最善の知見に基づくものですが、情報の完全さ、正確さを保証するものではありません。

\*これらの情報は日本の法令に基づいて作成されており、該当する国・州・地域の規制すべてに従うことは、ユーザーの責任となります。